

## 事例6 第1学年 内容項目：C 国際理解、国際親善

- |                                   |                            |
|-----------------------------------|----------------------------|
| ・興味や関心を高め、教材へとつなぐ導入               | ・考えを広げたり、深めたりする補助発問1, 2, 3 |
| ・他国の人（ALT）と触れ合い、自分との関わりで考えさせる役割演技 |                            |
| ・友達の手紙や写真から実践意欲につなげる終末            | ・自分を見つめる書く活動               |

1 主題名 ことばがつうじなくても

2 ねらい 主人公に自分を重ねて考え、話し合うことを通して、他国の人々に親しみ、進んで関わり、よりよい関係を築こうとする態度を育てる。

教材名 「となりのジェニーちゃん」（出典：「みんなのどうとく1ねん」学研）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第1学年及び第2学年の内容項目「他国の人々や文化に親しむこと。」に関するものである。

グローバル化が進む今日、国際理解や国際親善は重要な課題になっている。これらの課題に対応するためには、他国の人々や文化に対する理解とこれらを尊重する態度を養うことが求められる。そして、言葉や文化の違いを乗り越え、進んで関わりを深めていくことが大切である。

低学年においては、身の回りの事物が、自国の文化なのか他国の文化なのかを明確に区別することは難しい。また、他国の人々や文化に親しむ経験が多くはなく、他国の人々に対しての触れ合いに消極的になってしまう児童もいる。一方で、低学年らしく、前向きな姿勢で他国の人々と関わろうとする児童もいる。

指導に当たっては、身近な出来事や映像、書籍、衣食住の中にある他国の文化、スポーツ、行事などを通じた他国との交流に触れながら、他国の人々に親しみをもったり、よさに気付いたりできるようにする。また、言葉や文化が違うからこそその関わり方の難しさと、それを乗り越えて分かり合えたときの喜びを感じさせながら、他国の人々と進んでコミュニケーションをとることで、よりよい人間関係を築こうとする姿勢を育みたい。低学年のこの時期から、他国の人々や文化に親しむことで、さらに他国のことを知りたい、親しみたいという気持ちを高められるようにする。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、毎月数回、外国語学習を通してALTと直接触れ合う機会がある。最初は、話す言葉に戸惑う児童もいたが、今では授業だけでなく校内で見かけると、挨拶やスキンシップなど積極的に関わろうとしている。児童は、言葉が分からなくてもALTの言いたいことを予想しながら聞こうとし、ALTの母国フィリピンの話をした際には、学校の様子など、自分たちとの違いに興味をもって聞いていた。また、教わった他国の歌や手遊びもすぐに覚え楽しんでいる。

本学級には、父親がアメリカ人の児童がいる。入学当初、「なぜ名前がカタカナなのか」と自分たちとの違いを口にする児童がいたので、家族のことを説明し「どんな読み方、書き方をしてもみんなと同じ、大切な名前をもつ友達」と伝え、児童は「かっこいいね」と納得し、毎日仲よく過ごしている。2学期途中からアメリカに体験入学をしているため、その児童を通して他国の文化と交流する機会をもち、児童の他国への興味関心をさらに高めたい。

児童が、他国の文化に触れる機会は、各教科の中にもある。図工では、世界の子供たちの絵画を目にすることができ、音楽では、日本の歌とともに他国の民謡なども取り上げられている。朝の読み語りボランティアの方も、他国の本や民話を積極的に読んでくださっている。しかし児童は、それらが他国のものだとは自ら気付くことは難しいため、教師が意識して紹介することで興味をもたせる必要がある。また、生活科の教科書には、他国の子が共に学ぶ挿絵や写真が多くあり、児童にとって他国の人との関わりはより身近になっていると感じさせられる。給食では、毎月「世界の料理」が出され、様々な国の食文化に触れることもできる。珍しい料理に興味をもつ一方で、中には、慣れない味に嫌悪感を示したり、全く手をつけようとしなかったりする児童もいる。人との関わりにおいても同様に、知らない人、自分と異なる人を最初から受け入れたり、進んで関わろうとしたりすることは容易でない。しかし、児童は、4月から新しい友達をつくり、クラス全体が誰とでも仲よくできる温かい雰囲気である。

これらの実態を踏まえ、この授業を通して、他国の人に対する前向きでよりよい関わり方を考

え、実際に触れ合おうとする態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、小学校1年生の主人公「しんや」が、他国から来たジェニーちゃんと仲よくなる話である。フィリピンから来たジェニーちゃんは、日本語も話せない。初めは話しかけられないしんやだったが、ある日、弟と遊ぶジェニーちゃんを見かけたときに声をかけ、一緒に遊ぶことができた。言葉の壁を越えて、仲よくなっていく過程がマンガで描かれ、楽しく考えられる教材である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を話し合うことにする。

①ジェニーちゃんに対して、しんやが話しかけられずにいる場面。

他国から来た、言葉が通じない相手に対して、どう接してよいか戸惑っているしんやに共感させる。他国の人と進んで関わりがもてない理由や思いを考えさせる。

②弟と遊んでいるジェニーちゃんとしんやと一緒に遊ぶ場面。


それまで声をかけられなかったしんやがどのような思いで声をかけたのか、また一緒に遊びながら何を感じたのかを考えさせる。教材には、どのように声をかけたのかは描かれていない。そこで、ALTにジェニーちゃん役になってもらい、言葉が通じない相手にどのように声をかけるのか役割演技を行う。実際にフィリピンの遊びにも触れ、仲よくなる様子を再現しながら考えさせる。

③しんやとジェニーちゃんが仲よくなれた場面。

②の場面の役割演技で実感したことを踏まえ、言葉や文化の違いを乗り越えて、よりよい関係を築いていくために大切なことを考えさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 様々な国の子供たちの写真や絵日記を見る。 ・もしこの子供たちが、教室にやってきたら、どうする？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着ている服がおもしろい。</li> <li>・肌の色や文字が違う。</li> <li>・みんな笑顔だ。</li> <li>・困るかな。</li> <li>・仲よくなりたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な国の子供たちを目にすることで、自分たちと似ている所や違う所など自由に発言させ、関心を高める。</li> </ul>
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>興味や関心を高め、教材へとつなぐ導入</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>(他の国の子供たちがかいた「絵日記」を見せる。)</p> <p>T：これは何だと思う？</p> <p>C：あ、英語だ。</p> <p>C：絵もかいてある。</p> <p>T：この教室にも、音楽会の絵日記が貼ってあるけれど、これは、他の国の子供がかいた絵日記です。</p> <p>C：えーすごい！</p> <p>C：色がきれい。</p> <p>C：上手。</p> <p>T：みんなと一緒にかな？</p> <p>C：ちょっと違う。</p> <p>C：髪の毛とか、帽子とか、服も。</p> <p>C：頭に何か巻いているよ。</p> <p><b>T：違う国のお友だちの日記もあるよ。</b></p> <p>C：あ、韓国だ。</p> <p>C：字が違うもん。</p> <p>C：ぼく行ったことあるよ。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>			

T : これは…男の子が、泣いているね。

C : どうしたの？

T : 初めて学校に来る日、怖くて泣いてしまったんだって。

C : かわいそう。

C : ぼくも同じ気持ちだった。

(他の国の学校生活の写真を見せる。)

T : みんなと一緒にかな？

C : 椅子が無い。ノートもない。小さい黒板がノートだ。床で勉強している。裸足だ。

1つの机に3人。髪の毛がくりくりで色が違う。ナンとカレーだから、インドかな？

T : もし、こんな他の国のお友達が「1年1組に来ます」と言ったら、みんな、どうですか？

C : えー！うれしい！

C : いい！すごくいい！

C : わからない…心配。

T : どうして心配なの？

C : 優しくできるか。

C : どうやってしゃべればいいのか。

C : 緊張してしまう。

実際に外国の子がかいた絵日記や、学校生活の写真を提示することで、児童の他国へ対する興味関心を十分高め、課題となる言葉を投げかける。

他の国の人と関わることへの戸惑いをもつ児童の思いを引き出しながら、「そんなみんなと同じように…」と教材の主人公の紹介へとつないでいく。

展開

2 教材「となりのジェニーちゃん」を読み、話し合う。

(1)ジェニーちゃんに話しかけずにいるしんやは、どんなことを考えているのでしょうか。

- ・ どうしようかな。
- ・ 他国の子ってドキドキする。
- ・ 何て言ったらよいだろう。
- ・ 通じないのではないかな。
- ・ 話してみたいな。
- ・ 頑張っているな。
- ・ 友達になりたいけれど…。

・ 言葉が通じない相手に対して、どう接してよいか戸惑っているしんやの気持ちに共感させながら、他国の人と関わりをもつことの難しさとその理由を考えさせる。

考えを広げたり、深めたりする補助発問1

T : 話しかけられないしんやは、どんなことを思っていたのかな？

C : 話しかけるのは、恥ずかしいな。

C : 不安だな。

T : 何が不安なの？ 「不安」の中には、色々な思いがあることを引き出す。

C : 話しかけられるかどうか。

C : どうしたら友達になれるだろう。

T : でも、みんなだって、知らなかった子に声をかけて、お友達になれたのではないの？

自分との関わりで考えさせ、「日本人と他国の人では違うのか」という思いを引き出す。

C : 日本人じゃないから。

C : 同じ国の人なら、名前とかも分かるけど、違う国だから。

T : 違う国の子だと、日本人でないと、友達になれないの？

C : なるよ！思いやりがあれば…。

C : でも、しゃべれないよ。

C : でも、しゃべれないと思いやりも伝わらない。

C : 話しかけても、知らないと思われるかもしれない。

T : しんやも、“他の国の子だから友達にはなれない”という気持ちでいたんだね？

児童の発言をより深く考えさせるため揺さぶりをかけた。

C : ちがうちがう！！本当は友達になりたいの。けど…。

T : けど？けど、どうなの？

C : 英語がしゃべれないから…。

T : そうか、言葉が通じないことが、難しいことなんだね。

逆の考えを引き出そうとする問いかけ。

(2)弟と遊ぶジェニーちゃんに声をかけたのはどんな気持ちからですか。

- ・一緒に遊んでみたいな。
- ・遊び方を教えてほしいな。
- ・今がチャンスだ。
- ・言葉がわからなくても、何とかなる。

・他国の人と関わるために、一歩踏み出す時の思いを考えさせる。

### 考えを広げたり、深めたりする補助発問2

T : ジェニーちゃんと弟が遊んでいるのを見かけたとき、どんな気持ちになったのかな？

C : 話してみよう！

C : 友達になれるかもしれない。

C : でも、やっぱりちょっと不安。

T : ○○さんのように、まだ、ちょっと不安な人もいるのかな？ (数人が挙がる。)

C : 不安だけど、思い切って話しかけたらいい。

C : 一緒に遊べば友達になれるかもしれない。  
(複数「同じです！」)

C : ここでしゃべれたら、学校でも話せるかもしれない。

C : 弟もいるし、3人なら遊べそう。

T : (前の板書に戻り) でも、さっきは、あんなに不安で、話せないと思っていたのに、どうして、声をかけようと思ったの？

C : やっぱり、一緒に遊びたくなったから。

C : ぜったい友達になりたい！という思いが強くなったから。

C : このまま話せなかったら、ジェニーちゃんがかawaiiそう。

T : かawaiiそう？

C : だれも友達ができないかもしれない。

T : でもさっきは、しゃべれないとむずかしいって思っていなかった？

C : 違う国だけれど、同じ友達だと思えば大丈夫。

C : まずは、遊んでみれば、仲よくなれるって思った。

T : そうか。では、どんなふうにして、しんやはジェニーちゃんに声をかけたのかな？

一人の考えをクラス全体で共有できるような投げかけ。

板書を生かしながら、これまでの思いを振り返り、その気持ちに変化したきっかけについて考えさせた。

揺さぶりをかけた。

・しんやは、どんなふう  
にジェニーちゃんに声を  
かけたのでしょうか。

・ジェニーちゃん、何して  
いるの？  
・ぼくにも教えて。  
・一緒に遊ぼう。

・ALTがジェニー役・担任が弟役になり、実際にフィリピンの遊びをしながら、どう接していくのか役割演技を行う。言葉だけでなく、身ぶり手ぶりや表情でも表現させる。しんや役を演じた児童には、伝える難しさや伝わったときの喜びなどを聞くと共に、見ている児童にも、感じたことを発言させる。

### 他国の人 (ALT) と触れ合い、自分との関わりで考えさせる役割演技

#### 役割演技1

C (しんや役) : (かけよって) 一緒に遊ぼう！

ALT (ジェニー役) : (困った顔で) What?

C : (ゆっくり) いっしょにあそぼう。

A : What did you say? I don't know.

C : . . .

(言葉が出ず、固まる。しばらく考え、縄跳びをとぶジェスチャーをする。)

A : You wanna play?  
 Oh! You wanna play with me. OK!!  
 Look at me,like this.  
 Swing,swing,swing…  
 and jump,jump,jump! Let's try!

C : (表情が徐々に柔らかい、笑顔で一緒に跳ぶ。)

A : Oh good! What's your name?

C : … マイネーム … しんや。

A : Shinya?

C : イエス。しんや!

A : Nice to meet you.

C : (「うん。」とうなずき、握手)

A : You are my friend!



演技者と見ていた児童双方に聞くことで、演技者の考えやそこから伝わってきたことを全体で共有した。

(演技後)

T : 今やってみて、「遊ぼう」って言ったのに、伝わらずに英語で話されて、どう思いましたか?

C : 「どうしよう」って思いました。

(見ていた児童も大きくうなずく。)

T : でも、続けましたね。それは、どうして?

C : 一緒に遊べば仲よくなれると思ったから。

T : 見ていたみんな、どこがよかったのかな?

C : わかんないって言われても、勇気を出して、一緒に遊んでいた。

C : ちゃんと顔を見て、日本語だけど、何度も言っていた。

C : 手や動きでがんばっていた。



## 役割演技 2

C (しんや役) : (勢いよく走ってきて、大きな声で) ジェニーちゃん!! ジェニーちゃん! 遊ぼう!

A L T (ジェニー役) :

(びっくりして逃げる。) Oh! Oh No! I'm scared!

C : (頭を抱えて考えた後、優しい声で) ハロー。

A : Oh,hello.

C : マイネームイズしんや。

(自分から手を出して、握手をする。)

A : Nice to meet you,Shinya.

— 楽しそうに遊んだ後、「See you!」と言って戻る。 —



この児童らしい行為に注目させ、他の児童の役割演技との違いを考えさせた。

(演技後)

T : 今、ものすごく大きな声で元気に話しかけたのはなぜ?

C : 一番の友達になりたかったからね、すごくすごく大きな声を出しました。

T : でも、ジェニーちゃんも弟もこわがって逃げちゃったよね。その時、どう思った?

C : 言い方を間違えたと思って、どうしようってなったけれど、優しく言いました。

T : みんなも、〇〇さんの大きな声にびっくりしていたけれど、その後、はっ! て顔をして、小さな声で「ハロー」って言ったのが分かりましたか?

どうして〇〇さんは、言い方を変えたのかな?

C : ジェニーちゃんが怖がっていたから、怖くないようにしたんだと思います。

(3)言葉が通じないのに、ジェニーちゃんと仲よくなれたのは、どうしてでしょう。  
(中心発問)

- ・頑張って声をかけたから。
- ・一緒に遊んで楽しかったから。
- ・笑顔だったから。
- ・一生懸命伝えようとしたから。
- ・相手のことを知ろうとしたから。

- ・言葉や文化の違いを乗り越え、よりよい関係を築いていくために大切なことを考えさせる。
  - ・役割演技を行ったことを生かし、より実感をもって仲よくなれた理由を考えさせる。
- ☆しんやに自分を重ねながら、他国の人と関わる戸惑いや喜びに気づき、他国の人とのよりよい関わり方を多面的・多角的に考えている。

考えを広げたり、深めたりする補助発問3

T：言葉が通じないのに、ジェニーちゃんと仲よくなれたのは、どうしてでしょう？

C：言葉が通じなくても、同じお友だちだと思ったからです。

C：あきらめないで、友達になりたいって思ったからです。

C：一緒にあそべたからお友達になれた。

T：一緒に遊ぶとどんな気持ちになったかな？見ていたみんな、遊んでいる様子はどうだった？

C：楽しそうだった。

C：どんどんどんどん笑顔になっていった。

T：まだ、あるかな？

C：違う国で生まれても人間は同じだから、勇気を出せば大丈夫です。

C：心の向きが同じになって、絆がつながったからです。

T：「心の向き」かあ。みんな分かる？

C：心の向きは心の向きですよ、先生。同じ気持ちになるっていうか…近づくっていうか…。

児童の言葉をきっかけに、相手（他国の人）の思いにも触れさせた。

T：そうか、では、ジェニーちゃんになったジョイス先生にも聞いてみようか。ジョイス先生、しんやと話したり、遊んだりしてどんな気持ちになりましたか？

A：I'm happy and enjoy. 楽しかったし、嬉しくなった。

C：ほらね、一緒にの気持ちでしょ。

- 3 他国の人と関わる自分を見つめて考える。
- ・違う国の人に出会った時、どんなふうにすることが大切でしょう。

- ・恥ずかしがらずに話しかけてみる。
- ・笑顔で声をかける。
- ・日本のことを教えてあげる。
- ・困っていたら手伝う。

- ・導入で投げかけたことに戻り、自分ができそうなことを考え、一人一人ワークシートに書かせる。その際、単に仲よくなる“方法”を考えることにならないよう、他国の人と関わる時に大切にしたい“思い”も取り上げる。

自分を見つめる書く活動

となりのジェニーちゃん	となりのジェニーちゃん
【きょうのおべんきょうをして】 ちがうくにのひとにであったとき、 どんなふうにすることが、たいせつかかな？	【きょうのおべんきょうをして】 ちがうくにのひとにであったとき、 どんなふうにすることが、たいせつかかな？
ほく・わたしは、ちがうくにのひとにであったとき。	ほく・わたしは、ちがうくにのひとにであったとき。
まずはおなか よくする。ゆうきを ちのていまにして あげる。	ゆうきをたして しんやにあそぼう。 ていしてあそんでな かはくなる。
すずんではななつとした。😊😊😊 しんやちのちのちがうまよくあいた。😊😊😊	すずんではななつとした。😊😊😊 しんやちのちのちがうまよくあいた。😊😊😊

☆他国の人とのよりよい関わり方について、自分が大切にしたいこと、できそうなことを見つけ書いている。

終末	4 他国にいる友達から の手紙や写真を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の国の友達とがんばっているな。</li> <li>・ぼくも行ってみたいな。</li> <li>・もっと知りたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカに体験入学している友達から、現地の様子や手紙を送ってもらい、紹介することで、他国のよさを知り、実践意欲を高める。</li> </ul>
----	-----------------------------	---	---

友達の手紙や写真から実践意欲につなげる終末

T : アメリカでは、ハロウィンのとき、自分でかぼちゃをくりぬいて作るんだって。

C : もう友達ができただね。

C : 友達が優しくしてくれていてよかった。

C : ぼくもバスで学校に通いたい。

C : 帰ってきたら、もっと聞かせてもらおう。



- 5 他の教育活動との関連
- ・外国語学習において、英語に慣れ親しむだけでなく、映像、歌、絵本、遊びなどを通して、他国の文化や生活習慣に興味関心をもたせる。ALTと積極的に関わられるようにする。
  - ・国語、音楽、図工、読書等で各国の作品に触れる際、よさや特徴などに気付けるようにする。
  - ・朝の会や帰りの会で、他の国の出来事などを話題に取り上げる。
- 6 評価の視点
- 【物事を多面的・多角的に考えている様子】
- ・主人公に自分を重ねながら考え、友達の考えをよく聞きながら、他国の人と関わる難しさやよさについて話し合っている。
- 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】
- ・他国の人と関わるよさや大切にしたいことを自分との関わりで考えたり、書いたりしている。
- 7 考察
- (1) 道徳科の目標に示された学習活動
- ① 多面的・多角的に考える学習について
- 話合いの中で、児童同士が、自分の考えを表現でき、深めたり、広めたりできる発問と児童とのやりとりを大切にしたい。主発問を明確にもちながら、それ以上に、児童の発言を受けてそれを切り返すなど補助発問を入れながら授業を進めた。低学年の実態として、分かりやすい言葉で投げかけることはもちろんだが、出された意見に対して「どういうこと?」「なぜ?」とさらに尋ねたり、あえて逆の考えをぶついたりしながら思いを引き出すことが大切である。その際、発言者

に対してだけではなく、学級全体に問うことで、多面的・多角的な考えに触れられるようにした。揺れている児童のつぶやきや表情を見逃さず、多様な考えを取り上げるようにした。

## ②自分との関わりで考えさせる役割演技について

実際に言葉の通じない他国の人と接した時の思いや、言葉の壁を乗り越えてどんなふうに関しくなれるのかを実感をもって考えられるよう、**他国人であるALT**にジェニーちゃん役を依頼した。ALTには、活動の趣旨を説明し、日本語が分かる人ではあるが、分からないように演じ、すべて英語で話しかけてもらった。ジェニーちゃんになりきったALTの接し方や生の英語に、児童は困惑し、素直な反応を示した。それでも、何とか声をかけたり、ジェスチャーをしたり、一緒に遊んだり、思い思いのやり方で、一生懸命伝えようとしていた。また、実際にジャンプロープで遊びながら笑顔になっていく様子に触れ、演じている児童だけでなく、見ている児童も他国人の人と親しくなるよさを実感することができた。

役割演技を行うに当たっては、見ている側の児童への声かけも大切にしたい。演技前に、「自分だったらどうするか演じている友達と比べながら見る」と「友達のよかったところを探しながら見る」を伝え、演技後、やってみた児童・見ていた児童への問いかけを行うことで、演技者の考えやそこから伝わってきたことを共有できた。他国人の人に伝える難しさと伝わったときの喜びを学級全体で追体験することができた。

一方で、ALTが演技をする難しさも感じた。本校のALTは、児童の反応を見ながら、上手に進めていたが、活動のねらいや日本の道徳教育についても説明し、理解してもらう必要がある。担任が行うのであれば、児童の実態を把握しているのだから、演技中、揺さぶりをかけたり、同じやりとりではなく多様な意見を引き出したりする工夫が可能であるが、ALTにそこまでは求めることは難しい。それでも、本物の他国人の人に触れる活動は、児童にとって貴重な体験となり有効であったと考える。

## ③自分を見つめる書く活動について

1年生も少しずつ文章が書けるようになったので、教材を通して学んだことをもとに、自分自身についてじっくり考えさせるため、書く活動を取り入れている。まだ、文章表現もうまくできない児童たちに「何を書かせるか」日々、試行錯誤している。本時では、導入の問いかけも生かし、「他国の人と関わる時に大切にしたいこと」を児童それぞれが考えて書けるようにしたかった。児童は、大切にしたい気持ちや、自分にできそうなことを一生懸命書いてはいたが、中には、主人公の気持ちを書いたり、ジェニーちゃんへの手紙になっていたりする児童もいた。今後、「何を書かせるか」を明確にして伝えることと、児童が書きやすいワークシートの工夫が必要である。

## (2) 視点☆に基づく本時の評価

### 【物事を多面的・多角的に考える様子】

☆しんやに自分を重ねながら、他国の人と関わる戸惑いや喜びに気づき、他国の人とのよりよい関わり方を多面的・多角的に考えているか。

### 【話し合いにおける発言からの評価】

T：話しかけられないしんやは、どんなことを思っていたのかな？

C：話しかけるのは、恥ずかしいな。⇒**恥ずかしくて声がかけれない弱さに気付いている。**

T：でも、みんなだって、知らなかった子に声をかけて、お友達になれたのではないの？

C：日本人じゃないから。⇒**自分とは違う人（もの）を受け入れる難しさに気付いている。**

T：違う国の子だと、日本人でないと、友達になれないの？

C：なれるよ！思いやりがあれば…。⇒**人との関わりでは、国や言葉より、「思いやり」が大切だと考えている。**

T：では、しんやも、“他の国の子だから友達にはなれない”という気持ちでいたんだね？

C：違う違う！！本当は友達になりたいの。けど英語がしゃべれないから…。

⇒**仲よくしたいという思いはあっても、そうできないもどかしさを感じている。**

### 【役割演技からの評価】

C（しんや役）：（勢いよく走ってきて、大きな声で）ジェニーちゃん！！ジェニーちゃん！！遊ぼう！！⇒**自分なりのやり方で積極的に関わろうとしている。**

ALT（ジェニー役）：（びっくりして逃げる。）Oh! Oh No! I'm scared!

C：（頭を抱えて考えた後、優しい声で）ハロー。⇒**相手に合った接し方を考えている。**



T : 今、ものすごく大きな声で元気に話しかけたのはなぜ？

C : 一番の友達になりたかったからね、すごくすごく大きな声を出しました。

⇒親しみをもって接したいという思いがあふれている。

T : みんなも、〇〇さんの大きな声にびっくりしていたけれど、その後、はっ！て顔をして、小さな声で「ハロー」って言ったのが分かりましたか？どうして〇〇さんは、言い方を変えたのかな？

C : ジェニーちゃんが怖がっていたから、怖くないようにしたんだと思います。

⇒友達の考えのよさに気付いている。

上記のように、児童一人一人の発言から、それぞれの気づきや変化を見取るようにしている。また、教師の発言が適切であったかどうかでも反省をし、次の授業に生かしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

☆他国の人とのよりよい関わり方について、自分が大切にしたいこと、できそうなことを見つけ書いている。

【ワークシートの記述から】

手を挙げての発言は少なかった児童。こうしてみようかなという自分の思いを書いている。

はなしてともかあ  
いってみようかな  
ておおいねえ。

話合いの時から「勇気」をもつことが大切だと発言していた児童。自分自身も「勇気を出したい」という願いが書かれている。

ゆうきをだして、  
はなしかけて、  
いっしょにあんで、  
なかがよくなる。

導入で、違う国の子が来たら、緊張して不安だと答えていた児童。進んで関わろうとする気持ちへと変化が見られる。

ゆうきをだして、でき  
できしなういで！  
がえはってすてき  
にこれをだそう。

役割演技の際、「ハロー」と声をかけた児童。その体験を生かして書いている。

さいしょにハローを  
いってしなしかい。  
ばいしてなつかし  
くなって、いっしょにあそぶ。  
すんではっぴょうした。😊😊😊  
ともだちのかがえをよくきた。😊😊😊

自分にできる具体的な行為を考えている児童。

にはが"をおしえて  
あげたいな。  
すんではっぴょうした。😊😊😊  
ともだちのかがえをよくきた。😊😊😊

授業中の発言はなかったが自分の思いをもった児童。裏面までたくさん書いて表現している。(裏面)「おしえれば、おともだちになれます。」

はが"かしくてもおも  
いさってはなせば"お  
ともだちになれて  
おもっているきもちを  
すんではっぴょうした。😊😊😊  
もだちのかがえをよくきた。😊😊😊

文面だけを見取るのではなく、授業中の様子やその子の実態と絡めて読むようにする。1時間の心の変化が見られる児童や、発言が少なくても一生懸命書いて表現する児童、板書を見ながら、今日の学習をふり返って書いている児童もいることがわかる。また、ワークシートの下に、簡単な自己評価「進んで発表できたか」「友達の考えをよく聞いたか」の欄を設けることで、継続してその子の学習に向かう態度を見取り、本人の意欲にもつなげている。

### (3) その他

#### ①導入・終末の工夫

導入では、様々な国の文化に目を向けさせるために、児童にとって身近で、自分たちも書いている「絵日記」と学校の様子を提示した。児童は、他の国の子供たちと、自分たちとの共通点や相違点に気づき、自由に発言していた。他国への興味関心を十分高めたところで、「もし、こういう子たちが、自分たちの教室にきたら？」と問いかけ、課題意識をもたせて、教材へとつなげることができた。

終末では、アメリカに行っているクラスメイトの写真を提示して、その子の母親から聞いた近況を伝えた。まさに、ジュニーちゃんと同じ思いで過ごしている彼のことを気遣う言葉が聞かれた一方で、アメリカの友達と楽しそうに過ごしている姿に安心し、笑顔になっていた。また、日本とは違う、ハロウィンの様子や、バスで学校に通っていること、他国の友達、教室の様子に興味津々であった。「帰ってきたら、もっといろいろ教えてもらおう。」と話しており、他国への興味関心につながった。

本学級には、海外へ体験入学をした児童がおり、その家族の協力も得て、終末の活動ができた。そうでない学級で実施する場合は、役割演技で活躍してもらったALTに、来日した時の苦労話や日本人と触れ合って嬉しかった話をしてもらったり、母国の遊びや文化を紹介してもらったりする活動も考えられる。

## ②家庭への啓発

本授業は、学校公開日に実施した。事前に「授業の見どころ」を配布し、多くの保護者が参観してくださった。後日連絡帳や、個人面談の際に、感想をくださった保護者もおり、関心をもっていた。学級通信の記事にも載せ、来られなかった保護者にも授業の様子を伝えられるようにした。

〇〇小学校  
道徳だより

# 心のリボン

平成30年11月5日

## 1年1組 5時間目

教材名『となりのジュニーちゃん』

ねらい：主人公に自分を重ねて考え、話し合うことを通して、他国の人々に親しみ、進んで関わり、よりよい関係を築こうとする心を育てる。

### <授業のみどころ>

主人公のしんやは、フィリピンから来たジュニーちゃんに声をかけられずにいましたが、一緒に遊ぶことをきっかけに仲良くなれます。言葉が通じない二人は、どうして仲良くなれたのか？しんやになりきって、他国の人と関わる戸惑いや嬉しさを考え、体験することで、進んで関わっていこうという心を育てます。最後にサプライズが？！

## 1年2組 3時間目

教材名『くりのみ』

ねらい：自分のことを思ってくれる友達がいることのすばらしさに気づき、困っているときには互いに助け合おうとする心情を育てる。

### <授業のみどころ>

きつねはたくさんのどんぐりを見つけたが何も見つからないと嘘をつきます。しかし、うさぎは2つだけ見つけたくりのみをくれます。きつねに自分を重ねながら、友達より自分のことを優先してしまう弱さや友達と助け合う大切さについて多面的・多角的に考えていきます。

## 学級通信 ▼

### ことばが通じなくても・・・

先日のオープンデーには、たくさんの保護者の方に御参観いただき、ありがとうございました。授業参観とはまた違い、普段の子どもたちの様子をご覧いただけたでしょうか。ノートを開く、書く、文章を読む、話を聞く…4月はその1つ1つに時間がかかり、上手にできなかった子どもたちが、今は当たり前のようにできるようになってきています。反面、当たり前ができるようになったために、いい加減になったり、手を抜いてしまったりすることもあります。お子さんの成長を大いに褒めていただき、少し見えた課題については、引き続き励ましをお願いします。

5時間目の道徳の授業－「道徳」って一体何をやっているのか？正直お家の方は分からない部分もあると思います。そこで、この機会にぜひご覧いただきたいと思っていました。午前中に多くの保護者の方に来ていただいたので、午後の道徳はあまりいらっしゃらないかな…と思っていたのですが、なんと、お昼をはさんで、午後まで来ていただいた方もいて、感謝感謝です。ありがとうございました。

今回の道徳の授業は、「となりのジュニーちゃん」というお話を通して、外国の人とよりよく関わることについて考えさせました。今の時代、国をこえた人とのつながりも大切になっています。国が違うから、言葉が違うからという理由で物おしせずに、自分から親しくなろうという心をもてるようになってほしいです。とはいえ、言葉が通じない相手に戸惑うのも当然。そんな主人公の気持ちに共感しながら、自分のできる関わり方を考えられたらいいなと思いました。アメリカに行っている[ ]さんの様子にもふれることができました。今後も、道徳教育に対して関心をもっていたら、ありがたいです。

